ゴミは減らせる

ぼくの実践記録エコ新聞

発行日 H29年12月14日
発行者 愛知県
刈谷市立住吉小学校

美濃輪健心

雑草をかんそうさせると ゴミの量を約1/4に減らせます。

春夏は雑草がどんどん生えてくるので、ゴミの量が多くなってしまいます。以前に、参加した地域のエコクッキング教室で「生ゴミは、水分をしっかりと切ると燃やすためのエネルギーを減らせる」と教わった事を参考にして、草をかんそうさせようと思いつき実践しました。どこまで減らせるかな？

実践開始 方法と結果

方法は、とてもかんたんで、庭のすみに雑草を集めて置いておきました。ぬいたばかりの雑草は水分が多く、重たかった。

一週間後

雑草の量は、約半分になりました。ほとんどがかんそうしてカリカリになり、重さはすごく軽くなっていました。

一ケ月後

雑草の量は開始時と比べて、約1/4になりました。完全にかんそうして、一週間後より、さらに軽くなっていました。

太陽光、ダンゴムシが大活やく

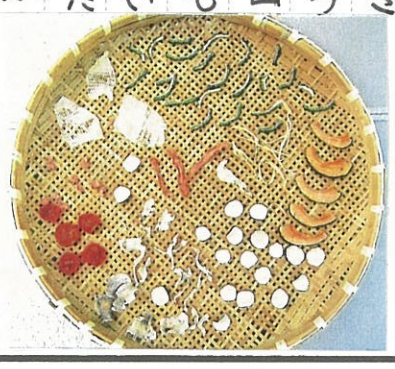
一週間で約半分に、一ケ月で約1/4に減らすことが出来ました。太陽光の力、分解者のダンゴムシの力のすごさを感じました。少しのアイデアで、多くのゴミが減りました。

米のとぎ汁が野菜作りに役立ちます。

江戸時代のくらしについて調べた時に、米のとぎ汁を昔は使っていたと知りました。そこで、ペットボトルの空き容器にとぎ汁をためて、庭で育てている野菜の肥料にしました。ツヤツヤのナスがしゅうかく出来ました。

野菜チップス作り

たくさんしゅうかく出来たものやいただいた野菜を、うすく切って天日干しにして作りました。皮まで食べられました。



空洞のヒマワリの種を主役に

3年生の時に、理科の授業で育てたヒマワリを毎年くり返し育てています。

①

②

今年も、りっぱな花が咲きたくさんの種がとれました。中身が空洞の種を使って、作品作りをしました。ゴミが主役になりました。

③

④

学び、実践、継続が大切 ―今のぼくたちにも出来ることがある―

家族で環境エネルギー展に行き、どうしてエコ活動が必要なのかを学び、エネルギーの使い方や、未来に向けて今できる事を考えています。ぼくたちにも出来ることがまだあるはずです。

身近な生活から未来へ向けて

12月上旬に、身近な公園の池で、カワセミがえさをとらえる、しゅん間を初めて見ました。多様な生物がこのさきもくらして行ける様にしようと強く思います。これからも、地道な努力とあらたな活動を続けます。

「20年後も、自然の中で生き生きとくらせるように」

全国銀行協会、朝日小学生新聞、朝日新聞社